

## 看護専門外来

### 糖尿病ケア・看護外来

当外来は、糖尿病患者に専門性の高い看護を提供することを目的として、看護部により平成 16 年 4 月に開設した。

#### 1. スタッフ

看護師長 1 名（専任）（糖尿病療養指導士）

#### 2. 活動内容

##### (1) 活動内容の概要

当外来は、専任の看護師が糖尿病・内分泌・代謝内科医師の指導、協力のもと、糖尿病患者を対象とした療養支援を行っている。

##### (2) 活動の特色

##### 1) 糖尿病自己管理指導

当外来の患者は、65 歳以上の高齢糖尿病患者が大半であるため、安全で簡便な自己管理方法を提供している。また、平成 29 年度より 24 時間持続血糖測定 (CGM) を導入し、生活習慣の改善指導も行っている (170 点)。

##### 2) 糖尿病透析予防指導

糖尿病腎症発症、進行予防のために糖尿病・内分泌・代謝内科医師、管理栄養士とチームを組み、糖尿病透析予防指導 (350 点) を行っている。

##### 3) 糖尿病足病変 (足潰瘍、足壊疽) 予防フットケア

糖尿病足病変リスク別に患者を層別化した「Osaka University Diabetic Foot Care Program」を作成し、リスクに応じたフットケアを行っている (170 点)。

##### 4) 糖尿病合併症の早期発見、進行防止

糖尿病神経障害、血管合併症 (動脈硬化) の検査を糖尿病・内分泌・代謝内科医師と協働で行っている (糖尿病合併症外来) (約 1,000 点)。

#### 3. 活動体制

予約制 (当日依頼可)

#### 4. 活動実績

##### (1) 令和元年度受診件数 (延べ)

令和元年度受診総数は 810 件で、内訳は糖尿病自己管理指導 443 件、糖尿病透析予防指導 310 件、糖尿病足病変予防フットケア 49 件、糖尿病合併症外来 40 件であった。

##### (2) 令和元年度の活動において特記すべき事項

令和元年度は、指導件数 (糖尿病自己管理指導、糖尿病透析予防指導) が昨年度に比し約 2 割増加した。糖尿病重症化予防には日々の食事や運動を振り返ることが重要で、指導機会を増やしその環境を整えたことが総受診件数の増加につながった。

### スキンケア外来

当外来は、様々な病態や治療に伴う皮膚トラブルを有する、またはそれが予測される患者に対して、専任の看護師が、ストーマケア、創傷ケア、失禁ケアを提供し患者の QOL の向上を図ることを目的として、消化器外科、泌尿器科、皮膚科医師のサポートのもとに平成 22 年 4 月に開設した。

#### 1. スタッフ

看護師長 1 名 (専任) (皮膚・排泄ケア認定看護師)  
副看護師長 1 名 (兼任) (皮膚・排泄ケア認定看護師)

#### 2. 活動内容

ストーマ造設手術を受ける予定の患者には、術前のストーマサイトマーキングから介入を開始する。病棟や外来主治医からの依頼に応じてストーマケアに関するオリエンテーションや情報提供を行う。

術後は病棟看護師と連携をとりながら、合併症の早期発見、患者の装具交換手技の自立を目指してケアを行い、社会復帰にむけての準備を行う。

退院後は、社会復帰を目標として皮膚・排泄ケア認定看護師が継続してケアを実施する。具体的には、定期的な観察によるストーマ合併症の早期発見とその対応、適切な装具選択によるストーマ周囲皮膚炎の予防、新しい製品の情報提供などである。また、障害受容の促進のための精神的サポートも大切にしながら、ストーマ保有者の QOL 向上に向けて取り組んでいる。

ストーマケア以外にも、入院中に創傷ケアなどで相談を受け介入した事例については、その後必要に応じて外来でも継続してケアを行っている。

小児外科外来では、ストーマ造設患児のケアとともに直腸肛門奇形などにより排泄障害をもつ児及び親へのケアを行っている。具体的には、成長発達を考慮した排泄方法の検討、教育機関、地域のケア担当者との連携、精神的ケアなどである。

#### 3. 活動体制

予約制

#### 4. 活動実績

令和元年度における当外来の介入件数は、消化器ストーマ 614 件、泌尿器ストーマ 182 件であった。小児外科症例に対するストーマケアを含めた排泄ケア及びスキンケアは 72 件であった。

## 呼吸器ケア・看護外来

当外来は、在宅で呼吸療法を必要とする患者に、退院後も継続した療養支援を行い、QOLの向上を目的として、呼吸器内科医師のサポートのもと、看護部により平成31年4月に開設した。

### 1. スタッフ

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 1名

### 2. 活動内容

本院で在宅酸素療法または在宅人工呼吸療法（在宅持続陽圧呼吸療法を含む）の処方を受けている慢性呼吸不全患者と気管カニューレを装着している患者を対象とした療養支援と、呼吸療法に関する機器の導入や変更、使用している酸素流量の評価と調整を呼吸器内科医師の指示のもと行っている。

また、慢性呼吸不全患者は身体的・精神的・社会的な問題を有しており、自ら対応していくための能力獲得にむけたセルフマネジメント教育と、今とこれからを共に考えるアドバンスド・ケア・プランニング（ACP）を行い、その人らしい人生を歩めるよう、療養の場所や治療に関する意思決定支援も行っている。

本院入院中より介入することで病棟看護師と連携し、病院と在宅を結ぶシームレスな看護の提供と、呼吸器センターの呼吸リハビリチームと連携し、包括的呼吸リハビリテーションが退院後も継続できるように支援している。

### 3. 活動体制

予約制

### 4. 活動実績

令和元年度における当外来の介入総数は270件であった。患者数は71名で在宅酸素療法60名、非侵襲的人工呼吸4名、在宅持続陽圧呼吸療法1名であった。疾患は間質性肺炎30名（43%）、COPD25名（35%）その他16名（22%）であった。間質性肺炎のJRS重症度分類ではⅢ20名・Ⅳ10名、COPDの重症度分類では、なし2名、軽症2名、中等症5名、重症10名、最重症6名と重症度の高い患者が多く、呼吸困難に伴う身体・精神・社会的苦痛を抱えていた。また、在宅酸素を医師の処方通りに使用できていた患者は28名（47%）であり、介入により46名（77%）へ改善した。

## リンパ浮腫・看護外来

当外来は、手術に伴う二次的なリンパ浮腫の患者及び明らかな原因のない原発性リンパ浮腫の患者に対して、浮腫症状を改善し、運動機能やQOLを向上させ、蜂窩織炎等の合併症を予防することを目的に、形成外科医師のサポートのもと自費診療の外来として令和2年2月に開設した。

### 1. スタッフ

副看護師長1名（専任）（リンパ浮腫療法士）

副看護師長1名（兼任）（リンパ浮腫セラピスト）

### 2. 活動内容

形成外科リンパ浮腫外来を受診し、そこでリンパ浮腫と診断された患者に対して、患者の状態に合わせて以下のケアを組み合わせ提供している。

- (1) 自宅での療養状態の確認と日常生活におけるセルフケア指導及び相談対応
- (2) 上肢、下肢の計測と浮腫症状の確認
- (3) 弾性着衣の選定
- (4) 感染症を予防するためのスキンケアに関する指導、助言
- (5) 用手的リンパドレナージ
- (6) 弾性包帯法の実施と指導

### 3. 活動体制

予約制（自費診療のため当日保険診療を受けての受診は不可、入院中の受診も不可、予め形成外科リンパ浮腫外来を受診の上そちらからの紹介となる）

### 4. 活動実績

令和2年2月から3月の当外来の介入件数は11件であった。